

活動事例紹介

八宮地区環境資源保全会〔白石市〕

地区概要	取組面積：117.7ha（田97.8ha、畑19.9ha） 資源量：水路 36.8km 農道 8.7km ため池 1箇所
令和5年度交付金	農地維持支払交付金 3,330千円 資源向上支払（共同活動）交付金 2,303千円 資源向上支払（施設の長寿命化）交付金 1千円
地域の概要	白石市は宮城県の南端に位置し、西は奥羽山脈、東は阿武隈山系に囲まれ、市域の7割が山林を占めています。本保全会の属する地域は蔵王の麓を源流として、清らかで豊富な水資源に恵まれており、そのほとんどは水田への活用が主体となっています。 また、地域は鎌先温泉に隣接しており、地域内には観光施設「弥治郎こけし村」があるため、観光客の往来も見られます。
取組みの概要	本保全会は、清らかで豊富な水資源を農村環境の維持発展と後世に引き継ぐ術として、水路の十分な保全管理を行いつつ、地域環境の維持向上の一環として、花を用いた景観形成に力を入れています。さらに、地域の子どもたちが水資源と触れ合える機会として、地域の子供会を招いた「水生生物観察会」を開催しています。
取組みによる効果	花の植栽により景観は向上しました。作付けされていない水田を活用し、蓮やポピー等の植栽を行うこと、さらにそれらの法面に防草シートを設置した芝桜の植栽を行うことは、農地や法面管理の省力化につながっています。また、子供会とは水生生物の観察のほか、環境浄化ポスターの作成も実施し、地域全体で豊かな農村環境を守ろうという機運が高まっています。
今後の課題	土手など急傾斜の多い中山間地域であるため、高齢化が進む中での農地の維持に苦労しています。また、昔から使用している水路は老朽化が進み、傷んでいる箇所が多く、用水がU字溝から漏れ出す・下流まで行き渡らないといった課題があることから、U字溝の入れ替えや増設による対応を視野に入れています。資源向上に関しては、花を用いた景観形成などに、地域の女性が参加し活躍できる機会を増やせるよう検討しています。
その他	時期ごとにマリーゴールドや葉ポタンの苗を使用し、「八宮のさと」の花文字を形成しています。このほか、景観維持の一環として、ポイ捨て禁止を呼びかける趣旨の看板を設置し、「この農道・農地は地域の宝です」と表記しています。



草刈作業



法面の芝桜



水生生物観察会



環境浄化ポスター



葉ポタンによる花文字形成



花文字「八宮のさと」